

海外留学帰国報告書

氏 名 : 田原成巳

留学期間 : 2015年3月 ~ 2016年2月

1. 出発前の準備

【留学の目的】

留学の目的の中心になっていたのは友達とコミュニケーションをとりたいというものだった。私にはスイス人の親友がおりこれまでは英語を使って会話などをしてきたのだが、彼の母語であるドイツ語が分かればもっと深いところまで相手を理解できるのではないかと思い語学勉強中心に留学しようと思った。

【入学許可申請】

商学部の協定校であったため、事務室を通して申請を行った。面接などを通過し合格すると手続きは進められる。出発の近くになると現地の大学より入学許可書が送られてくるのでしっかり保管する。

【外国語能力】

1年生の後期からドイツ語プラスワンの授業を履修していた。渡辺先生には語学や現地での生活に多くのアドバイスをもらいとても参考になった。ドイツ語検定は3級までは取得しておいた。また、総合学際ではコヴァリク先生のゼミに所属していたので英語で行われる授業やベルリンやドイツに関する知識をできるだけつけていくようにした。

【留学費用、奨学金】

奨学金は明治大学外国留学奨励助成金と明治大学父母会奨学金2つを交付していただいた。また、その他自治体や企業などの奨学金もあるので留学前に事前に調べておく期限などもあるので焦らずに済むと思う。

【健康保険】

ドイツの大学で入学許可をもらう際には必ず保険に加入しなければならない。主な保険会社としてはAOKとTKがあり、日本から事前に加入することもできるが私は到着直後の入学手続きの際に案内されAOKに加入した。

【ビザ】

ビザは到着後3か月以内に申請しなければならない。HochschuleではなくUniversitätもしくは、Bürgeramt Bremen Bürger Service Center-Mitteで登録できる。申請にはパスポート、学生証、住民票、健康保険証などが必要になりできるだけ早いうちに申請するのがいい。収入証明書も必要なので事前に日本のドイツ大使館で済ませておくと思う。

2. 協定校での諸手続き

Hochschuleではセメスター開始前に、学生証とSemesterticketの発行、保険の加入案内

どがオリエンテーションを通して行われる。担当するドイツ人は英語ができるので不安に思わなくても大丈夫だと思う。履修登録は2つに分かれている。1つは語学の授業で、申請用紙に記入し直接担当者に渡す方法。もう1つの専門科目登録はオンラインであり、登録の早い人順に埋まっていくので注意しないとイケない。もし、分からないことがあれば大学で日本語を教えている松井先生に質問するといいと思う。多少複雑なので、注意して手続きをしてもらいたい。

3. 宿舎と日常生活

【宿舎】

私は現地に到着してから、家を探した。最初の1か月は、ブレーメンに住む知人の家にステイさせてもらいそこで1年間住む家を探した。4月からは、ドイツ人と2人でフラットシェアをしていた。家賃は月€310でこれは光熱費やインターネットを含めた値段だったのでとても良かったと思う。大学からも徒歩15分、トラムで10分ほどであり立地もよかった。大学から紹介される物件はたまにとっても遠いことがあるので事前に調べておくとも良いかもしれない。

【日常生活】

ブレーメンは大きくはないが生活するうえで必要な物はそろっていると思う。中心地も大学から近いので食料品や生活消費財以外のものも簡単に購入することができる。少し郊外に行くと、IKEA やアウトレットなどもあるので家具などが必要な場合は足を延ばしてみるといいと思う。

4. 授業やカリキュラムについて

【協定校でのカリキュラム】

私たち留学生が選べる授業は大きく分けて3つに分けることができる。1つ目は、語学授業であるドイツ語以外に英語、フランス語、韓国語をはじめ多くの選択肢の中から選んで履修できる。日本人学生は2つまで無料で受講できるため是非活用するといいと思う。

2つ目は留学生用の授業である。世界各国からやってくる留学生用の授業であり英語で講義が行われる。専門科目について基本的には行われる。3つ目は一般の授業である。英語だけではなくドイツ語でも開講され、ドイツ人の学生も受講している。学年にかかわらず授業を受けることができるため自身の興味のあるものから選ぶといいと思う。

【履修した授業】

前期はタンデムとドイツ語の授業を中心に行っていた。タンデムパートナーは2人だったが、週に各2回ずつ計4回あったので時間的には授業とのバランスはとれていたと思う。その他にインドネシア経済を学ぶ留学生用の講義を受けていた。英語で開講され主にプレゼンやレポートなどで成績はつけられていた。

後期は専門科目の授業を増やし私が日本で専門にしているサプライチェーンマネジメントやヨーロッパやドイツでの経済について学ぶ講義を受けていた。どの授業も、積極的に発言が求められているようでディスカッションの力が成長したのではないかと思う。

【課外活動】

私は参加していなかったが、ブレーメン大学の方にはサッカーやボルタリングなど様々なスポーツを安くすることができるのでチャレンジしてみると良いかもしれない。また、夏など長期休みにはゲーテをはじめ語学学校に通う人も多く継続して語学勉強をすることができると思う。

【留学の成果】

私自身留学は2回目だったが、成果はやはり、国境を越えて多くの友人を得ることができたことだ。ドイツをはじめ、他国から来た留学生の友達から学ぶことは多く行動力の高さやコミュニケーション能力の高さはとてもいい影響を受けたと思う。また、様々な人が生活する国から日本を見ることでこれまでとは違った一面や自分自身の日本に対する無知さにも気づくことができたと思う。

5. 帰国準備と帰国後の手続き

帰国1週間前に住民登録をした場所に行きブレーメンから日本に帰国することを伝える。その際に、いつも混んでいるので朝一で訪れることをお勧めする。保険はフライトチケット、大学からの留学終了を証明する書類などを持っていき解約することができる。銀行口座を閉じるのには時間がかからないため帰国直前に済ませた。

帰国後は大学の事務室に帰国届を提出、報告書の作成や現地で取得した単位の変換などを行った。私は就職活動があるのでそちらの手続きも行った。

6. 商学部生へのメッセージ

人によって留学の長さは短期、長期間様々です。私はその中で、日本の当たり前な生活がどれだけ凄いことだったのか気づく事がありました。その一方で、どうして日本はこうなのだと疑問に思うところも沢山ありました。こういった、語学だけではなくそれ以外の事柄に興味や意識を向けることができたのもドイツ視点から日本を見ることができたからだと思います。それぞれ留学に行く目的は違うと思いますが、自分のやってみたいことをしっかりと持ち素晴らしい留学を送れるように一歩ずつ進んでみてください。